

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	79	学校名	浜松城北工業高等学校	校長名	寺田 弘隆
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を高める授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> 「授業に、自分の考えを表現する場面や対話する場面が取り入れられていて、理解を深めることができる」と答えた生徒90%以上 授業アンケートで「授業が分かる」と答えた生徒80%以上 v 授業参観した教員100% 観点別評価の着実な実施、具体的な評価規準の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 前期 90.0% 後期 89.0% 87.4% 90.9% 適切な観点別評価について各教科で検討した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動に積極的に授業に導入して理解が深まるように工夫をした。 発言の積極性が低いため、より生徒の活発な話し合いや表現の場を確保したい。 w@ 目標は達成できたが、定員割れに伴い生徒の学力が低下傾向にあることを考えると、より一層の授業の工夫が求められる 目標を達成できるように授業参観の周知を徹底したい。 新課程の観点別評価は着実に実施されている。 主体的態度の評価について検討が必要である。
	基礎力の定着、学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「力がついたら実感できる」と答えた生徒80%以上 国数英の全教員が基礎力診断テストの分析結果を授業改善に活用 学習時間調査で「1日の学習時間30分以上」と答えた生徒90%以上 「進路を意識した具体的な取組をしている」と答えた生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 前期 82.4% 後期 83.0% 前期 79.5% 後期 75.5% 前期 84% 後期 81% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 達成 (昨年 前79.4%、後86.7%) 返却時に個々の生徒へのアドバイスをを行ったが、分析結果のさらなる活用が望まれる。 未達成 (昨年 前92.8%、後83.2%) 達成 (昨年 前80%、後81%) 3年生は十分高いが、1・2年生がやや低いため、早い段階から進路意識を高める必要がある。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	資格取得・検定合格に向けた指導	<ul style="list-style-type: none"> 技能検定合格 3級 60人以上 2級 5人以上 	前期合格者 3級 83人 2級 1人 後期合格者 3級 人 2級 人	A	達成。3級（普通旋盤5、フライス2、マシニングセンタ1、電子機器組立て9、機械保全55、シーケンス制御6、機械検査5）2級（普通旋盤1） （後期合格者の発表（3月）後に判断する。）
		<ul style="list-style-type: none"> 電気工事士合格 2種 30人以上 1種 15人以上 	合格者 第2種 18人 第1種 20人	A	<ul style="list-style-type: none"> 第1種は目標を達成。第2種は目標に届かなかった。
		<ul style="list-style-type: none"> 情報技術検定合格 3級 70%以上 2級 50%以上 	合格者 3級 69.6% 2級 48.1%	A	<ul style="list-style-type: none"> 2・3級ともに、ほぼ目標を達成した。
		<ul style="list-style-type: none"> 計算技術検定 3級合格 80%以上 	合格者 3級 80.3%	A	<ul style="list-style-type: none"> 達成
		<ul style="list-style-type: none"> 機械製図検定合格 30人以上 	合格者 41人	A	<ul style="list-style-type: none"> 達成
イ	基本的生活習慣の確立、規範意識の育成、他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 無遅刻者の割合 85%以上、遅刻延べ数前年度比 10%減 交通事故ゼロ 「校内スマホルールを守っている」と答えた生徒 95%以上 「自分も他の人も大事にしている」と答えた生徒 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 無遅刻率 80.0% 遅刻延べ数 622 交通事故件数 17件 99% 94% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標に届かなかった。（昨年度 79.4%） 目標を達成できなかった。昨年度比 23.7%増（昨年度 503） ゼロの目標は達成できなかった。昨年比 1割減など現実的な目標を追加したい。（昨年度 18件） 達成（昨年度 97%） 高い割合を維持できている。 達成（昨年度 95%） 人権に関する伝達講習を行った。
	いじめや不登校生徒への相談体制の整備、教職員の対応能力向上	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する調査を年2回実施 「信頼できる先生がいる」と答えた生徒 85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する調査を3回実施。（3回目は1,2年生のみ） 84% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 達成。Google クラウドの活用により集計がスムーズにでき、早期対応ができた。 毎週、相談室担当で会議を開き、情報を共有した。 未達成（昨年度 85%） 特別支援に関する研修を実施できた。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	新型コロナウイルス感染症への対応	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動における感染者及び濃厚接触者ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> 陽性者職員 6名 生徒 169名 (1月末現在) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 未達成。感染者ゼロという目標は無理だったが、コロナによる閉鎖はなかった。学校行事における感染症対策を検討、実施した。感染者の把握に努め、早期の対応により感染拡大を防ぐことができた。
ウ	望ましい勤労観・職業観の育成、系統的なキャリア教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「必要な進路情報が入手出来ている」と答えた生徒85%以上 インターンシップに60人程度が参加し、生徒の自己評価75点以上及び企業の評価A(良好)がともに75%以上 1次募集での内定率85%以上、年内内定率100% 	<ul style="list-style-type: none"> 前期92% 後期91% インターン参加90人 自己評価75点以上93% 企業評価A84% 1次募集内定率91.3% 年内内定率99.4% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 達成(昨年 前92%、後92%) 達成(昨年度 64人) 達成(昨年度 88%) 達成(昨年度 82%) 達成(昨年度 94%) 未達成(昨年度 100%) おおむね順調な1年であった。
	共生意識の醸成、特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 交流事業15件以上 特別配慮を必要とする全ての生徒について情報共有の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス交流、行事等を合わせて15件の交流を実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> クラス、学年、学科など多岐にわたって交流を行っている。 全体では、対面式、体育大会、球技大会、防災訓練、文化祭で交流を行っている。 何らかの障がいを持つ生徒が増えている現状で分校のコーディネーターによる授業参観・アドバイス・講演が両者に役立った。
エ	特別活動や部活動を通じた、協調性・積極性・達成感・忍耐力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「学校生活に達成感・満足感を持っている」と答えた生徒80%以上 「部活動に積極的に参加し、やりがいを感じる」と答えた生徒80%以上 休養日及び1日の活動時間を遵守した部活動の割合80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 87% 87% 78% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 達成(昨年度 87%) 達成 目標には届かなかった。部活動ガイドラインを改めて周知していく必要がある。(昨年度 67%)

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	読書活動を通じた知性・感性の育成	・「1か月間に1冊以上の本を読んだ」と答えた生徒70%以上	・71%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・達成（昨年度 74%） ・朝読書の時間があることによる効果が大いと考えられる。 ・遅刻者の影響で朝読書の環境が整わないことがある。
	社会貢献活動を通じた社会性・人間関係形成能力の育成	・学校の社会体験活動等に参加した生徒 50 人以上	・15人	C	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の増加単位の申請者が5人と少ない。社会体験活動等の啓蒙の必要あり。
	環境意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・「省エネや分別など環境を意識した行動をしている」と答えた生徒85%以上 ・ゴミの分別100% ・課題研究で環境意識を盛り込んだ取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 85% ・後期 84% ・100%には達しなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・達成（昨年 前 85%、後 87%） ・ゴミの持ち帰りや、ペットボトルの分別など、きちんと意識して行動している生徒がほとんどであった。 ・3年生課題研究で環境に配慮した企業調査を行うなど環境意識を高めることができた。
	技術系各種競技大会への積極的参加	・各種大会での上位入賞	・各種大会で優秀な成績を収めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・【機械科】ものづくりコンテスト東海大会溶接作業部門に出場 ・【電子機械科】ものづくり競技大会シーケンス制御部門に参加。 ・【電気科】第18回若年者ものづくり競技大会電気工事職種に1名、第22回高校生ものづくりコンテスト東海大会電気工事部門に2名出場 ・【電子科】ものづくりコンテスト電子回路組立部門東海大会に2名出場
オ	外部との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を3回実施 ・マイスター・ハイスクールの実施計画書に記載した取組の着実な実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回実施 ・ロードマップにしたがって活動を実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・委員から多くの意見をいただき学校運営の参考となった。 ・運営委員会・事業推進委員会・情報交換会やマイスター・ハイスクール事業において、ヤマハ発動機等の地元企業、浜松市、浜松地域イノベーション推進機構と連携した。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	中学校への広報、中高連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学、学校公開への参加者の前年度比増 ・HPリニューアル、インスタグラム等の充実と更新頻度の向上 ・志願者数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開等の参加者数（）内はR4年度(8月)体験入学 中学生 394(394) 保護者 214(188) 計 582(582) (11月)授業公開 中学生 71(142) 保護者 40(71) 計 131(213) (12月)オープンスクール 中学生 155(165) 保護者 75(77) 計 230(218) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学校公開行事を予定通り実施することができ、参加中学生の延べ人数は昨年度並であった。 ・中学校への出前授業(学校説明を含む)を20校(R4年度15校)で実施し、本校の魅力や特色を伝えることができた。出前授業が木曜日と金曜日に集中しており、担当教員の偏りと負担増につながっている。 ・ホームページの更新頻度は例年並みであった。容量オーバーによる更新できなかつた。 ・マイスター・ハイスクール課題研究発表会や新聞・テレビ報道で充実した広報ができた。中学校向けの「城北工高(工業高校)に進むメリット」をまとめたパンフレットを作成した。
	保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・「一斉メールで、学校からの情報が分かりやすく伝えられている」と答えた保護者90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・91% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・達成(昨年度93%) 来年度から保護者からの要望に答えて一斉メールのシステムを刷新し、より連絡が取りやすく個別連絡も可能なものに変更予定。
	信頼される事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・要望等への対応100% ・会計を担当する教職員が円滑に業務を遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望に適切な対応を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口対応や電話対応、会計業務に対し、教職員間で連携を図り、トラブルから回避することができた。
カ	みんなで円滑処理、休暇は休もう	<ul style="list-style-type: none"> ・出張関係書類の漏れのない記載と期限内の提出 ・ペーパーレス化により、業務が改善したと答えた教職員70%以上 ・夏季休暇(5日)の完全消化 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入漏れ(押印忘れ、出張時間未記入、経路変更チェック漏れ)が少数見受けられた ・80.2%の教職員がペーパーレス化により業務が改善したと回答。 ・平均取得率は4.9日 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への適切な指導を行い記載ミス削減に努めた。 ・朝の打合せと運営委員会・職員会議のペーパーレス化を実現できた。 ・教科指導については1年生から一人一台端末導入が始まり、まだまだ課題はあるものの、ペーパーレス化・デジタル化は着実に進んでいる。」 ・呼びかけを行い、多くの職員が夏季休暇の完全取得ができた。